

## 公認会計士試験に向けて頑張ったこと

私は大学で公認会計士を目指すにあたり、決めていたことが一つあります。それは、同じ予備校の生徒の中で誰よりも勉強するということです。私は指定校推薦で入学しているの、一般入試で入学してきた人には地頭で勝つことはできないと思っていましたし、同じ商業高校生でも、既に1級や税理士試験の科目合格をしている人がいたため、普通の人よりも努力が必要だと感じていました。そのため、朝8時から予備校の閉門時間である夜11時までの学習を毎日継続しました。大学2年生の時はコロナウイルスの影響により、予備校内での学習はできなくなりましたが、絶対に合格したいという気持ちを持つことで自宅でも学習を継続することができました。

また、学習する上では、失敗から学ぶということを大事にしていました。私は、公認会計士試験に一発で合格したわけではありません。1年生と2年生の時の短答式試験（いわゆる1次試験）で2度不合格となっています。不合格になるということは自分の中でだめだったところが必ずあるので、どこがだめであったのか、どうしたら改善できるかを考えて日々の勉強に活かすようにしました。

基本的な頑張りとしては、「誰よりも学習する」とことと「失敗から学ぶ」という2点のみですが、こうした地道なことの積み重ねが最終的にはとても大きなものになりました。公認会計士試験は難しいと言われることから、難しい問題を解けなければならないと思う人が多いですが、相対評価の試験なので、多くの人が正解できる問題に確実に正解する必要があります。そのためには、基本に立ち返り、地道に基礎を作り上げていくことが重要です。私は、この基礎を着実に積み上げられたからこそ合格することができたのかなと思います。